

家庭学習の手引き

～家庭学習の習慣化を目指して～

1. 家庭学習のねらい

- ①子どもに、家庭での学習習慣を身に付けさせることです。
- ②子どもに、自発的な学習意欲を育ませるということです。
- ③子どもに、基礎学力を身に付けさせることです。

中でも特に大切なのは、「学習習慣を身に付けさせる」ことです。
小学校のうちに机に向かう習慣を身に付けることが、将来に大きく役立ちます。



2. 家庭学習の習慣や方法

(1) 学年の発達段階による家庭学習のめあて

1・2年	3・4年	5・6年
学校の宿題ができる。	学校の宿題が、必ずできる。自分で宿題に取り組める。	学校の宿題だけではなく、自分で家庭学習にも取り組める。
毎日、家でも学習しようという気持ちになる。	宿題以外にも少しずつ自分で家庭学習に取り組める。	自分の興味や必要性のある学習に自主的に取り組める。

(2) 家庭学習の方法（させ方）

***幌別西小では基本的に、全学年とも「毎日、宿題」があります。**

***宿題は、全員が必ず行い、提出することになっています。**

- ①まず最初に「宿題」に取り組めます。文字をていねいに書き、最後まであきらめないうで取り組めます。

- ②「家庭学習の時間のめやす」をもとに、時間があれば「家庭学習の手引き」の中から選んで取り組みます。（高学年は自分で考えて取り組んでもいいでしょう。）
- ③次の日の学習の準備をし、学習したものを忘れずに提出できるようにします。

(3) 家庭学習の時間のめやす

毎日、**学年×10分**の学習を！

- *子どもたちが発達段階に応じて無理なく学習習慣を身につけることができるように、学年を追うごとに10分ずつ学習時間を増やしています。
- *【学年×10分】を基本とし、お子さんの様子や学年に応じて、【+10分】をめざしていきたいものです。

3. 基本的な生活習慣と学力との関係

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果によると、次の項目に「している」「どちらかといえばしている」と回答した子どもは、「していない」「どちらかといえばしていない」と回答した子どもより、国語や算数の問題において、平均正答率が高い傾向が示されています。

- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
→しっかり睡眠をとっている。
- 毎日、朝食を食べている。
- 時間を決めて、テレビを見たりゲームをしたりしている。
- 読書が好きである。



基本的な生活習慣と学力との関係は「深い」と考えられます。

それぞれの子どもの発達段階に応じて、身に付けることが望ましい生活習慣があります。子どもの健やかな成長には、保護者と学校とが連携し、子どもの基本的な生活習慣づくりに努めることが大切です。

安心・集中して学ぶことのできる家庭の環境づくり

子どもが集中して家庭学習に取り組むことができるよう、次の点にご配慮ください。

その1 生活のリズムを整えさせましょう

- ①「早寝・早起き・朝ごはん」や朝の排便など、規則正しい生活を送らせる。
- ②睡眠時間を十分にとらせ、食事に気を配る。
- ③テレビやゲームの時間などのきまりをつくり、約束事を守らせる。

その2 学ぶ雰囲気をつくりましょう

- ①学習の場所は、学習机でも食卓でもかまわないが、静かで集中できるところで行わせる。
(テレビを消して学習に集中させる)
- ②学習時間を決めて、「短時間で集中的に」行うことができるようにする。
- ③身の回りの整理整頓をさせる。(机の上は、学習に使うものだけ)
- ④学校で使う道具・持ち物の準備・点検の習慣を身に付けさせる。
- ⑤毎日の読書の時間を決め、続けさせるようにする。
(低学年では、一緒に読んだり、音読を聞いてあげたりすることが励みになる)

その3 子どもとたくさん対話をしましょう

- ①学校の出来事を聞き、子どもが学校でがんばっていることや困っていることを理解する。
- ②新聞記事やニュースなどを話題にして、社会への関心を広げる。
- ③自分の夢をさがしたり、それを実現するための方法についてアドバイスする。

その4 努力を認め、励ましましょう

- ①「よくできたね」「ていねいに書けたね」「大きな声で読めたね」など、子どものがんばりを認める言葉かけを行う。
- ②「この問題、わからない」というときも、投げ出したりすることのないように、「教科書持ってきてごらん」「お母さんならこうやるよ」と子どもの努力に力を貸す。
やってみてどうもはっきりしないときは「明日、先生に聞いてごらん」とアドバイスする。
- ③ものごとをやり遂げる成功体験を積ませることで、子どもに自信をもたせる。

※ご協力よろしくお願いたします。